

## 平成 30 年度事業報告

平成 30 年度は、10 月に入退院支援室を開設し、通年で安定した入院患者数を維持し、稼働病床の有効かつ効率的な利用により収益増となる体制整備に取り組んで参りました。

しかし、季節的な要因による入院患者数の減少が長引いたことなどにより、残念ながら 30 年度決算は、経常収益が 30 億 2,500 万、前年比で 1 億 2,900 万の減少、経常費用は 31 億 200 万で 700 万減少し 7,800 万の赤字決算となりました。

主な内訳としては、

収益では、(1) 保険診療収益が 1 億 100 万、その他診療収益が 1,500 万の減収、(2) 介護収益が 2,500 万の減収（訪問リハビリの訪問看護への移行と介護報酬の改訂による単価の減少及び利用者の体調不良等による平均利用者数の減少による）(3) 訪問看護収入 1,900 万増収（訪問リハビリの移行と訪問件数の増加による）があげられます。

経費では (1) 人件費が 4,900 万の増加（患者受入れ強化のための人員の増加による給与とそれに伴う法定福利費の増加、退職給付費用の増加）

(2) 薬品・材料原価が 4,900 万の減少（患者数の減少による影響と、かねてより取り組んでいた後発医薬品への切換えの効果）

(3) 一般経費では、①減価償却費が 1,000 万増加、②租税公課 400 万減少（前年度後期に多額の出費を伴うエレベーターシステムと空調設備の更新があったことにより、当年度の減価償却費の計上が増えたことと、前年度にはそれに係る控除対象外の消費税が租税公課として計上されていたことによる影響）③修繕費が 600 万減少、④水道光熱費が 600 万増加（夏季の高温による電気使用料の増加、重油等の単価の高騰）⑤地代家賃が 400 万減少（前年度に駐車場用地を購入したことによる）、⑥検査委託費が 400 万減少（検査数の減少）があげられます。

平成 30 年度の 1 日当たり平均入院患者数は 160.7 人で前年度比 11.5 人減少し、内訳では一般病棟が 118.1 人で前年比 11.6 人の減少、療養病棟が 42.6 人で、0.1 人の増加になりました。

令和元年度は、10 月以降の消費税の改訂による支出の増加を踏まえて、経費の削減と、稼働病床の有効利用に力を注ぎ、前年度終盤から堅調に推移している平均入院患者数を維持しながら、在院日数の短期化を図り収益増の体制整備に努めていきたいと考えております。

併せて、近隣機関との連携を図り地域の医療ニーズに応え、地域医療に貢献し、且つ永続的に安定した経営が図れるよう取り組んで参ります。

## ■ 設備・機器導入

### ー土地・建物設備ー

- 南館健診センター空調システム : 4月完了 (29年度案件)
- プレハブ冷蔵庫 (栄養科) : 9月完了
- 電話システム : 10月完了 (29年度案件)

### ー医療機器等ー

- 心電図データーサーバー (健診) : 4月完了 (29年度案件)
- 業務用マルチ周波数体組成計 : 11月完了
- 心電計 (健診) : 5月完了 (29年度案件)
- 患者用電動ベッド : 2月完了
- パイルパッカー (薬剤科) : 5月完了
- 温冷配膳車 (栄養科) : 7月完了
- 胃部X線装置 (健診) : 3月完了
- ラベルプリンター (健診) : 5月完了
- スパイロメーター (健診) : 未完了
- チルトテーブル (リハビリテーション科) : 未完了

### ーソフトー

- 医薬品情報管理システム (薬剤科) : 未完了
- 検査システム (臨床検査科) : 1月完了

## ■ 人 事

### ー入職者 : 29名ー

医師3名、看護師5名 (内2名国際交流協会)  
准看護師3名、薬剤士1名、管理栄養士1名  
理学療法士1名、言語聴覚士2名、放射線技師1名  
その他12名

### ー産休復帰者 : 9名ー

看護師 (准) 6名、検査技師1名、事務2名

### ー定年退職者ー

3名 (看護助手1名、検査技師1名、事務職1名)

### ー中途退職者 : 30名ー

医師3名、看護師 (准) 8名、看護助手 (クラーク) 5名  
管理栄養士1名、調理師2名、放射技師1名、臨床検査技師1名  
理学療法士1名、言語聴覚士1名、保育士1名、事務職6名

### ー年度内産休取得者 : 9名ー

看護師 (准) 4名、看護助手2名、検査技師1名  
管理栄養士1名、事務職1名